

6 府中市の農業

(1) 近郊農業とその役割

近郊農業とは、大消費地に向けて野菜などを出荷する農業のことである。（消費地に近い特性を生かし、新鮮な農作物の供給のほか、防災面、環境面、市民との交流の場などの多面的な役割をもつもので府中市の農業を都市農業とも呼ぶ。）

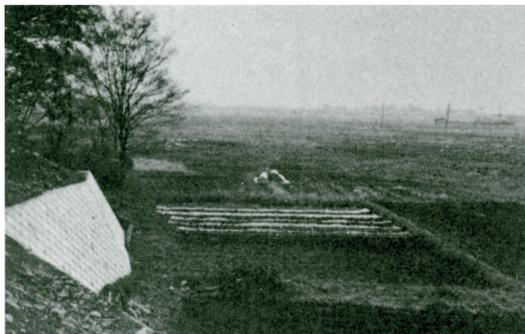
府中市の農地は平成27年では14,854アール^{※1}で、田が4,917アール、畑が9,937アールとなっている。農家数は454戸である。専業農家は6戸、兼業農家（農外収入のある農家）は448戸である。農業従事者数は、993人である。

府中市の主な農産物は、水稻のほか、コマツナ、ワケネギ、キャベツなどの野菜や梨、植木、花がある。特にコマツナ、ワケネギについては、品質が良く高い評価を得ている。畜産農家も多少残っていて、鶏が飼育されている。

(2) 農家の区分について

（※1）1アール＝100平方メートル（10m四方）

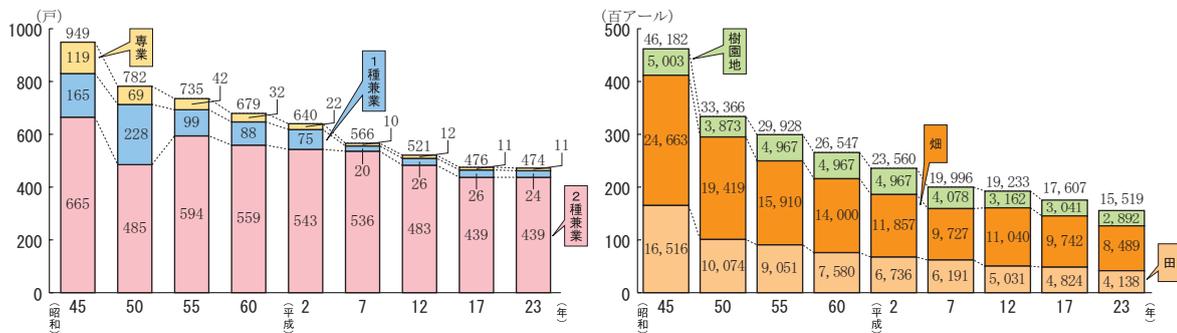
専業農家とは、農業収入のみで生計を営んでいる農家のことである。兼業農家とは、農業以外にも収入がある農家である。兼業農家のうち、第1種兼業農家とは農業収入が農業以外の収入より多い農家で、第2種兼業農家とは農業以外の収入が農業収入より多い農家である。



ハゲ上から押立方面を望む（1955年頃）



大規模団地（車返団地）1993年



農家数と耕地面積（市外農地を含む）の変化（平成23年版府中市統計書）

課題

- ① 府中市における専業農家の割合はおよそ何%ですか。
- ② 専業農家と兼業農家の割合はどのように変化しましたか。

(3) 農業の問題

府中市の農業の課題として、農業従事者の高齢化に対応するため農業後継者の育成が挙げられる。また、バイオテクノロジー（生物の機能を応用した技術）などの研究開発の成果を活用し、高品質な生産を助長し特産化することや、さらに、安全面で低農薬型の有機農業を支援することが課題である。

課題

- ① 近くの農地で作られている農産物を調べてみよう。
- ② 府中市の農業の問題点を3つ挙げてみよう。
- ③ 下の表にア～エの作物名を記入し、作物を写真で確認しよう。
- ④ 1位から5位までの農産物の特徴を調べよう。



農地にせまる住宅（本宿町）

平成27年度 府中市で生産されている主な農産物の作付け面積ランキング（単位：アール）

順位	主な農作物	作付面積
1位	()	1,170.8
2位	()	791.0
3位	えだまめ	407.4
4位	じゃがいも	393.0
5位	ほうれん草	345.1
6位	大根	320.1
7位	ねぎ	286.7
8位	ブロッコリー	283.9
9位	栗	282.1
10位	()	274.3
11位	さといも	259.8
12位	ブルーベリー	237.4
13位	柿	209.2
14位	()	204.9

ア
水稲（米）



イ
小松菜



ウ
梨



エ
キャベツ



（資料：府中市農業委員会だより〔平成28年6月号〕）

※答えは P.113 にあります。

(4) 農協の特色と現状

農協とは農業協同組合の略で、近年はJAの通称でも呼ばれている、農家が協力してその生活維持や農業生産の向上を目指すための組織である。農業技術の指導や肥料・農薬などの共同仕入れ、直売所の運営や農業資金の貸しつけなどを行っている。一般的には総合農協のことを指し、農協数は708、組合員数は1,015万人という大規模な組織である。府中市に本店を置く農協マインズ農業協同組合（通称JAマインズ）は西府、多磨、調布、神代、狛江の5つの農協が合併して発足した。

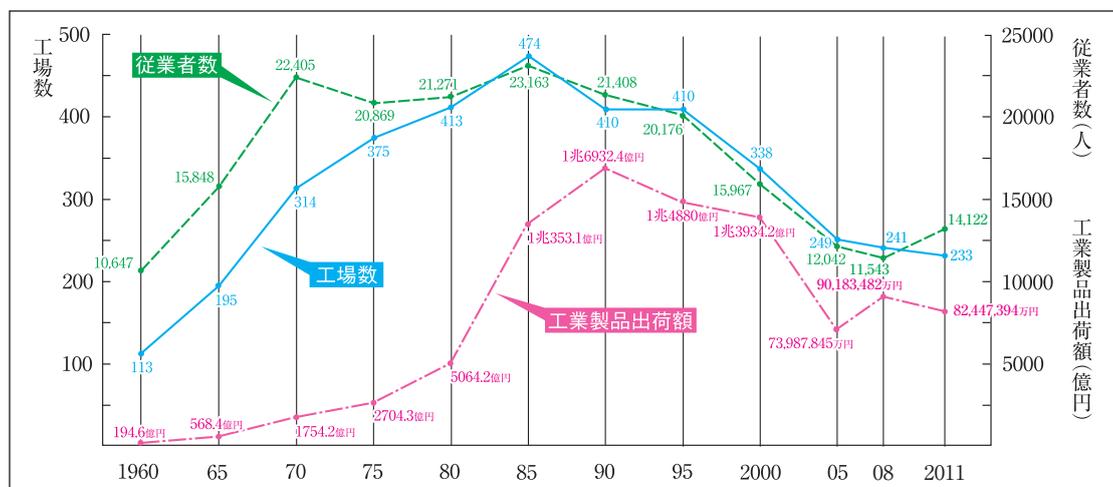
全国の職員数はピーク時の30万人台から21万人に減少している。事業別では購買事業が大きく減少する反面、共済事業が増加する傾向がある。厳しさを増している最近の経済や社会事情の変化に応じて、各農協の合併を進めている。

7 府中市の工業

(1) 工業発展の歩み

50年ほど前までは純農村であった府中市に工場が進出し始めたのは、1938年（昭和13）に日本製鋼所ができて製鉄業が盛んになってからで、その後1940年（昭和15）には東芝の工場が建設されている。府中市の工業は、1958年以降急速に発展した。

府中市では、「工場設置奨励に関する条例」を定め、1968年までに積極的に工場を誘致することで、多くの工場が進出してきた。ただし、大気汚染や騒音などの公害を発生しない業種に限定した。これらの工場には、都心に近く鉄道や道路の交通に便利なこと、労働力を近くから得やすいこと、広い土地を比較的安価に入手できることなどの利点があった。



府中市の工場数・従業員数・出荷額の推移（資料：平成26年版府中市統計書）

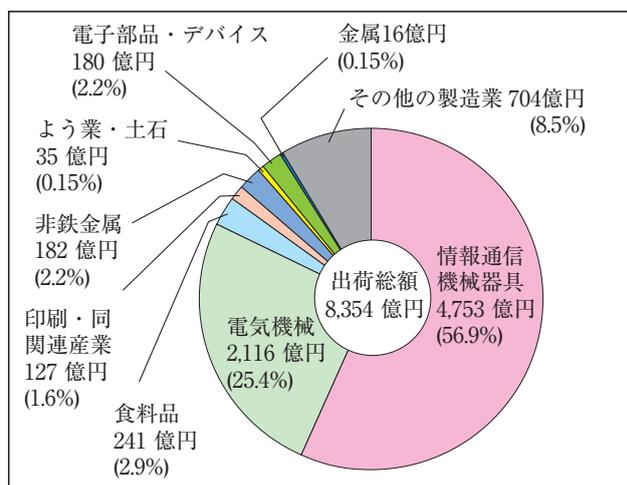
課題

- ① グラフから、府中市の工場数・従業員数・出荷額はどのように変化してきたか読み取ろう。
- ② 「工場設置奨励に関する条例」の内容を調べよう。

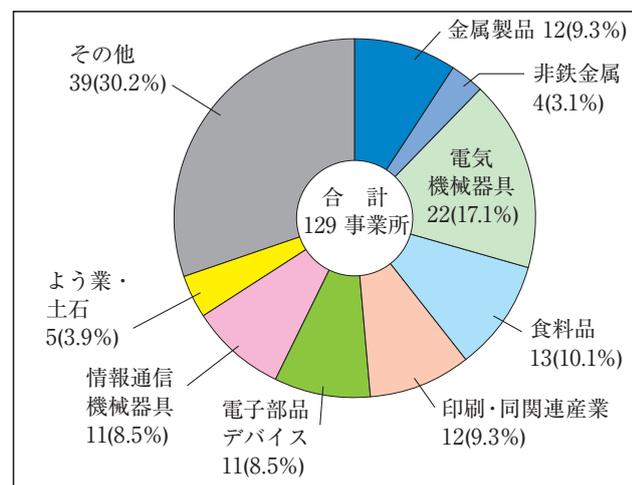
(2) 工業の特色

府中市の工業を業種別にみると、電気機械器具、金属製品、一般機械器具、食料品などの事業所数が多く、規模は従業者数1,000人を超える工場が2つあるが、多くが30人未満の工場であり、しかも1～9人の工場が全体の約半分を占めている。工場の立地環境は、市と企業との間に工場緑地などを内容とする協定が締結されるなど、住環境を守るための取り組みが進められている。また、多摩川沿岸の地域を中心に、エレクトロニクスなどのハイテク産業が集積してきている。

また、食品加工業や新聞社などの出版・印刷業の進出もみられる。さらに、市の中心部に位置する製鋼所跡地に高度な情報機能をもった大規模な業務ビルが建設されるなど、工場跡地を利用した業務機能の集積も進んでいる。府中市の製造品出荷額は東京都26市の中で第1位である。



平成25年業種別工業製品出荷額 (単位: 億円)
(資料: 平成26年版府中市統計書)



平成25年業種別工場数の割合
(資料: 平成26年版府中市統計書)



市内に多い小規模工場の様子



大規模工場の様子

課題 グラフから、どんな工業製品の出荷額が多いか読み取ろう。

(3) 工業の課題

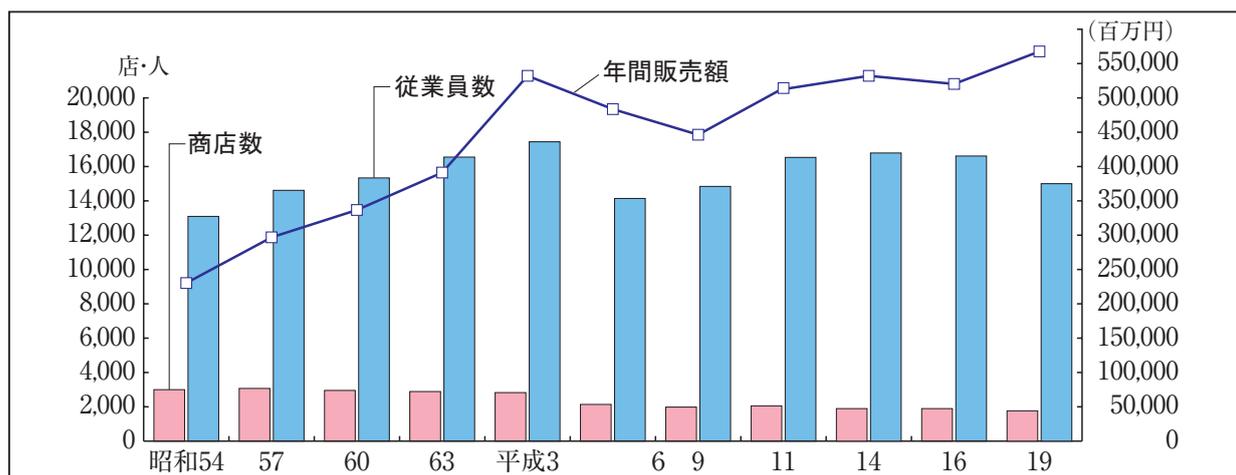
府中市の工業において、商品の価格や売れ筋、技術開発の成果など、地域産業に関する情報を提供する産業情報システムを確立することが重要である。IT産業のさらなる発展やベンチャー企業（創造性に富んだ、独自の技術や経営手法をもつ新興企業のこと）の育成・強化を図ることも重要である。また、産業活性化センター（新技術や製品の研究開発支援・交流を行うためのセンター）の建設などにより、一層の地域産業の活性化が必要である。

- 課題**
- ① 学校の近くには、どんな種類の工場があるか、調べてみよう。
 - ② 府中の大工場はどうして今の場所にできたのかその理由を考えてみよう。
 - ③ 府中の工場の問題点をまとめよう。

8 府中市の商業

(1) 商業発展の歩み

府中市の商業活動は、大國魂神社の門前町、甲州街道の宿場町として発展してきた。府中市が、東京の住宅地として発展するにつれ、増大する購買力に伴い、商店数も増加してきている。業種別では、卸売・小売商・飲食店が最も多く、次いでサービス業（洗濯、理容、医療業など）、近年、金融・保険業、情報関連サービス業が著しい伸びを示している。



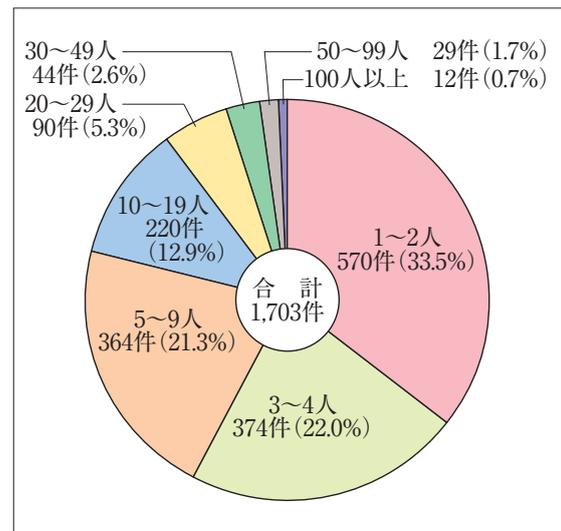
商業の推移（資料：平成26年版府中市統計書）

- 課題**
- ① グラフを見て商店数や従業員数にどのような変化が見られるかを考えよう。
 - ② 年間販売額と商店数・従業員数との関わりを考えてみよう。

(2) 商業の特色

平成19年に実施された商業統計調査によると、府中市の商業における年間販売額は5,672億円で、市部においては八王子市、立川市、町田市について第4位である。

業種別では、卸売業の年間販売額は3,374億円である。小売業は1,329店、従業員数11,638人、年間販売額は2,297億円であり、食料品や日用品などの取扱店が圧倒的に多いのが特色である。商店の規模を従業員数で見ると、従業員数1～4人の小規模経営が特色となっているが、近年、りょうはんてん※1量販店の出店が相次いでいる。



従業員規模別商店数の割合〈平成19年6月1日現在〉
(資料：平成26年版府中市統計書)

(※1) 量販店とは商品を大量に仕入れ、大量に安く売る小売店のこと。

(3) 商業の課題

平成22年12月現在、府中市内には54の商店街がある。これらの商店街では、集客力の向上や魅力的な商業空間づくりに向けた一層の活性化が今後の課題である。具体的にはインターネットによる通信販売など新たな経営の導入、中小企業の支援、商店街が行うまつりなど地域住民とのふれあい活動の支援、共同駐車場の設置、府中駅南口の再開発事業などが進められている。



大型店やスーパーマーケットの進出は、地元商店街に様々な影響を与えている。



自動車の発達に伴い、新甲州街道沿いに車関連の店やレストランなどの進出が目だつ。

課題

- ① 私たちがどのような商品をどこに買いに行くのかまとめよう。
- ② 下の表を作ってみよう。(小数点第2位以下は切り捨てとする)

商店の数(平成19年)

区 分	商店数総数	卸売業商店数	小売業商店数
東京都市部	29,598	5,167	24,431
府中市	1,703	374	1,329
東京都の市部の中で占める府中市の割合(%)	()	()	5.4%

(資料:平成26年版府中市統計書)

- ③ 府中市の商店が消費者を引きつけ、今後の発展を図るためにはどうしたらよいか、話し合ってみよう。

9 市内の再開発など

(1) 府中基地跡地の利用(浅間町一丁目)

浅間町一丁目には、昭和時代初めに旧帝国陸軍の燃料基地として設置され、戦後は在日米軍によって管理されていた「府中空軍施設」があった。1974年(昭和49)に施設を管理していた在日米軍司令部や第5空軍司令部が横田飛行場に移転し、1975年(昭和50)には、通信施設を除く大部分が日本に返還された。

その後、跡地利用として「府中市生涯学習センター」「都立府中の森公園」「府中市美術館」「府中の森芸術劇場」「府中市立浅間中学校」などが建設された。現在では地域の人々の生活に根つき、市外からも多くの人々が訪れるスポットになっている。

なお、跡地北側の約15haの土地は留保地として未利用のままとなっている。



府中市生涯学習センター

(2) 調布基地跡地の利用(朝日町三丁目周辺)

朝日町三丁目周辺には、昭和時代初めに旧帝国陸軍の飛行場が設置され、戦後は在日米軍によって補助飛行場として管理されていた。現在は「調布飛行場」となっている。1964年(昭和39)に東京オリンピックが開催された際には、東京都渋谷区にあった米

軍施設や住宅が、選手村として使用されることになったため、その代わりとして「調布飛行場」周辺に移転され、「関東村住宅地区」と呼ばれていた。1973年（昭和48）に飛行場地区が、1974年（昭和49）には関東村住宅地区がそれぞれ全面返還され、現在では規模を縮小した「調布飛行場」を東京都が運営するとともに、「東京外国語大学」や「警察大学校」、「都立府中けやきの森学園」、「都立武蔵野の森公園」、各種社会福祉施設などが建設され、人々の生活に欠かせない地区となっている。

(3) 砂利採取跡の利用（府中郷土の森公園）

多摩川流域では江戸時代から砂利の採掘が盛んに行われてきたが、人々は砂利採掘のために掘られた大きな穴を「砂利穴」と呼び、砂利をふるう仕事など農家にとっては貴重な現金収入源となっていた。採掘された砂利の使い道は鉄道や道路に敷くための大きい石が中心であったが、やがてコンクリートの材料としても使われるようになり、1923年（大正12）に起きた関東大震災後の復興需要によって、その生産量は急増していった。

また、砂利の運搬のために採掘場周辺では次々と鉄道が敷かれていった。「多摩川砂利鉄道（現在のJR南武線）」や「京王電気軌道（現在の京王線）」、武蔵境からは是政まで伸びる「西武多摩鉄道（現在の西武多摩川線）」、さらに今では廃線となった「東京砂利鉄道（国鉄下河原線）」などがそうである。しかし、砂利の採掘が盛んになるにつれて、多摩川では堤防の破壊や水質低下による漁業への被害、河床の低下によって農業用水が取れなくなるなどの問題が出てきた。そのため1934年（昭和9）から砂利採取の規制が始まり、1965年（昭和40）には全面禁止となって、その歴史に幕を下ろした。その後、「砂利穴」と呼ばれた広大な砂利採取跡地は整備され、スポーツ施設や交通公園、博物館などが建設された。現在では「郷土の森公園」として、子供をはじめ多くの市民の憩いの場となっている。

(4) 日鋼町の整備（インテリジェントパーク）

府中市には大きな企業によって支えられてきたことが分かる地名が存在するが、そのひとつが「日鋼町」である。かつてこの地区には大きな製鋼所があり、戦車や艦艇の火砲、終戦後にはパワーショベルなどの大型機械が製造されていた。

1987年（昭和62）にそれらの機械製造が打ち切られると同時に工場も閉鎖され、その跡地の再開発が行われた。



オフィスの建ち並ぶインテリジェントパーク

現在では先進的なまちづくりの考え方にもとづき、「インテリジェントパーク」という名称で整備され、様々な企業のオフィスが建ち並んでいる。

(5) 新駅設置とまちづくり

府中市では西府村時代にあった南武鉄道「本宿駅」「西府駅」が1944年（昭和19）4月に廃止されたことにより駅復活を願い、住民・府中市が一丸となって粘り強く当時の国鉄と交渉を続けてきた。しかし新駅設置の条件が厳しく、実現することが難しいとみられていた。

その後、1987年（昭和62）の国鉄分割民営化によりJR東日本では新駅設置条件が緩和され、府中市では新駅設置に向けて周辺地域の利用旅客数調査を始め、西府土地区画整理組合とともにJR東日本と協議を開始した。1993年（平成5）以降のJRとの様々な交渉を乗り越え2005年（平成17）5月新駅設置が正式に決定された。設置予定地には、西府土地区画整理事業による駅周辺整備と、大規模集合住宅の建設により、人口増加が見込まれた。新駅の名称は2007年（平成19）1月JR八王子支社より連絡があり「西府」に決定した。その後、新駅設置の条件を一つ一つ乗り越え、2009年（平成21）3月14日に市民待望の「西府駅」が開業した。

西府駅は府中市の西部に位置し、地区を東西に横断するJR南武線の谷保駅と分倍河原駅のほぼ中間地点にあり、府中駅から約2.2キロ西に位置する。地区の地形は府中崖線を除くとほぼ平坦な台地である。西府土地区画整理組合が中心となり、平成26年度までに西府駅周辺地域の区画整理も完了し、西府地域のまちづくりにさらなる発展が見込まれる。



西府駅全景



JR南武線西府駅前

課題

- ① 市内で再開発された跡地には、他にどんな場所があるのかを調べてみよう。
- ② よりよい府中市にするためには、他にどんな計画が必要かを話し合ってみよう。